

天然アユ、なぜか激減

日本海側の河川で今年、天然アユが激減している。今月各地で起きた豪雨の以前からの傾向だ。原因は今のところよくわかっていないが、昨年秋季に日本海で大発生したエチゼンクラゲの影響を指摘する声もある。

富山県を流れる神通川。かつて上流の釜山から流れ出たカドミウムにより、流域にイタイイタイ病の患者が発生した。今は清流が戻り、多くの天然アユが遡上し、全国からたくさん釣りが訪れている。この川のアユが、全国のアユの大きさや味を競う大会で1

釣り大会中止

今年は6月19日にアユ釣りが解禁された。しかし、全然釣れない。例年ならシーズン中の休日には両岸にびっしり釣りがあふぶが、今年はこちらは。長らく神通川で釣りをしてきたという男性68は「天然アユが全然おらんもんに、釣りに来るもんなんかおらんわ」と嘆いた。

地元の愛好会「富山神友会」は、8月に全国に呼びかけて友釣りの名人大会を開催する計画だったが、「これだけ釣れないと恥をさらすだけ」と

中止を決めた。

神通川のアユは、毎年10〜11月にかけて川で産卵する。数週間で孵化し、海に向かい、4月から5月にかけて川に戻って

くる。

比率を調べている。その結果、例年は遡上が7で放流が3だったのが、今年は3対7に逆転していることがわかった。「天然アユは例年の2割弱」と、同漁協の東秀一参事は言う。

日本海側共通

天然アユの激減は、日

本海側の河川に共通した特徴のようだ。福井県・九頭竜川の九頭竜川中部漁協では、毎年6月上旬に15人ほどで試し釣りをする。例年、1人十数匹は釣れるが「今年は全員あわせて1匹釣れただけ」。ほかの県からも同様の声が聞かれる。

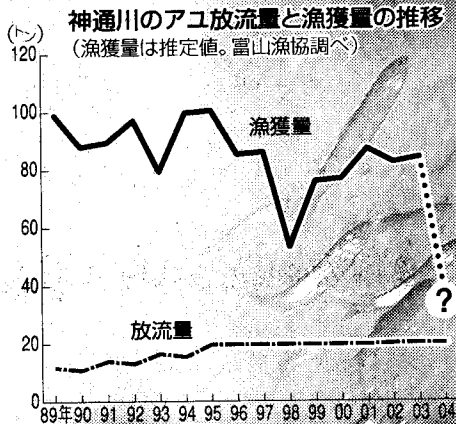
クラゲの大発生が関係？

「例年は150万〜200万匹遡上するが、今年は10万匹程度。現在の水温はアユにとって適温で、いまアユの姿が見えないということは、死滅した可能性が高い」（鳥根県高津川漁協）

エチゼンクラゲは、大きいもので傘の直径が約20センチ、重さ約200グラムに達する。東シナ海で孵化し、対馬暖流にのって日本海を北上する。大量に定置網にかり、各地の漁業に打撃を与えた。田子さんは、天然アユの遡上が少ないのは、昨



神通川のアユ放流量と漁獲量の推移 (漁獲量は推定値。富山漁協調べ)



「多いときは30ほど遡上するが、今年は1トイけばまし」（兵庫県岸田川漁協）

一方、太平洋側の河川では、顕著な減少は見られていない。神奈川県相模川では、2千万匹近いアユの遡上が確認されたという。地元漁協は「まわりの川も同様に好調です」と話している。

「エサ不足」説

日本海側でアユの遡上が減った原因はよくわかっていないが、昨年秋季に日本海で大発生したエチゼンクラゲが一因だと考える研究者もいる。

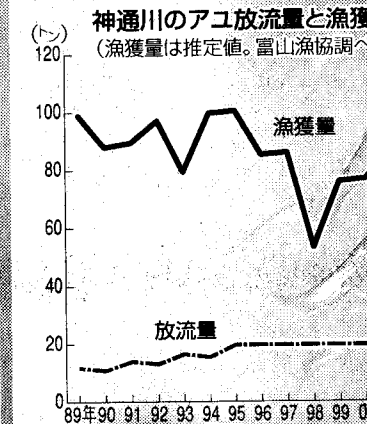
富山県水産試験場の田

神通川 発

友会」は、8月に全国に呼びかけて友釣りの名人大会を開催する計画だったが、「これだけ釣れないと恥をさらすだけ」と



神通川のアユ放流量と漁獲量の推移 (漁獲量は推定値。富山漁協調べ)



「多いときは30ほど遡上するが、今年は1トイけばまし」（兵庫県岸田川漁協）

一方、太平洋側の河川では、顕著な減少は見られていない。神奈川県相模川では、2千万匹近いアユの遡上が確認されたという。地元漁協は「まわりの川も同様に好調です」と話している。

「エサ不足」説

日本海側でアユの遡上が減った原因はよくわかっていないが、昨年秋季に日本海で大発生したエチゼンクラゲが一因だと考える研究者もいる。

富山県水産試験場の田